

## 第2章 評価の結果

本評価結果は、平成29年度第1回国土技術政策総合研究所研究評価委員会における審議に基づき、とりまとめたものである。

平成29年7月26日

国土技術政策総合研究所研究評価委員会  
委員長 小池 俊雄

### 【総合評価】

基軸となる研究活動と取り組み方針について、非常に広範囲にわたって取り組み、着実な成果を挙げている。また、次世代を担う人材の育成に工夫を凝らすなど、研究をより充実させるためのマネジメントにも幅広く取り組んでいる。総じて、国総研への要請に十分に応えた活動が展開されていると評価出来る。

今後は、アウトカムを意識した研究成果の戦略的な見える化、科学技術の総合力を高める研究における国総研の立場を明示するとともに、国際的にもブランド力を示せる秀でた研究領域の創出にも取り組んでもらいたい。マネジメントについては、若手・中堅育成や交流研究員制度活用を一層進め、また横方向の連携を意識した持続可能な研究体制をとって、単一的でない課題に取り組む基盤を形成する努力を重ねてほしい。

なお、以下に示す各委員からの意見も参考に、国総研の使命を今後とも果たしていくことを期待したい。

### 【委員からの意見】※括弧内は委員会資料との対応を表す。

#### ■ I 基軸となる研究活動と取り組み方針

##### (1. 国土交通行政のベースとなる研究開発、技術基準原案の作成)

- ・個々の研究開発テーマについて、ロードマップを策定し、定期的な進捗評価をしていくことが重要である。
- ・i-Constructionの活用の研究に加え、民間にかかるコストを考慮した普及のための研究を進めるべきである。

##### (2. 災害対応の支援、被災教訓を踏まえた減災策の高度化)

- ・災害多発時代になったときに、次々と発生する大規模災害への対応を行うため、限られた人的資源の下での災害対応調査、技術開発への戦略的対応が必要である。

##### (5. 国際研究活動)

- ・国際研究活動が日本で閉じている印象がある。海外の研究機関と協定を結んで人材交流を行うなど、国際交流の推進を目指してほしい。
- ・今後日本社会の人口構造の変化への対応研究、技術開発に加え、更に今後高齢化、人口構造転換が予想されるアジア諸国への貢献・研究協力を進められることが重要である。

##### (その他全般)

- ・国総研に求められる要請の多様性に鑑みれば、ともすると手を広げすぎている印象が持たれかねず、国民目線で見れば、全体として誰が何をやっているのかがわかりづらくなる。また、1つの社会課題に対し、多数の研究機関、大学、企業などが研究や活動を行っているので、

国総研の役割や貢献が把握しづらい。研究による社会貢献を評価するため、各分野の重み付け（マンパワーの投入計画）を示し、国総研の研究機関としての役割をわかりやすく整理すべきである。

- ・他に追従を許さないような強みのある分野を育てる方針を持つべきである。

## ■ II 研究をより良くするためのマネジメント

### （1. 自律的・効果的・効率的な研究マネジメント体制）

- ・国際的な学会活動（例えば、アジア交通学会）におけるリソース（旅費や共同研究の支援）をも活用した効果的な活動を視野に入れるべきである。

### （2. 効果的な広報活動の実施）

- ・研究所としてのブランディングを高めるべきである。
- ・一般向けの直接的な広報活動については、報道件数以外の尺度で評価すべきである。

### （3. 次世代の研究を担う人材の育成）

- ・若い間に蓄積・経験・歴史について視野を広げるため、自発的な若手・中堅勉強会や情報交換の場を設けていることは高く評価したい。研究所として、新しいものを生み出すため、若手研究者の育成に対して一層の取り組みを期待したい。
- ・交流研究員制度を効果的に利用している。国総研に来ることが大きなメリットとなる仕組みを導入するなど工夫を加え、一層の活用が期待される。
- ・組織力の基礎づくりのため、中核技術者育成や研修活動よりも更に上位の活動として、特別なエキスパートの育成や学位取得など、人的な能力を高めるための方針を推進すべきである。

### （その他全般）

- ・実装により社会へのアピールに繋がるため、研究評価の評価軸としては、現場実装の件数や効果を重視すべきである。
- ・論文執筆（特に英文審査有）の実績をしっかりと評価してほしい。